

東日本大震災に学ぶ

マンション問題総合研究所
理事長 喜田 大三

◎震災1年追悼式に陛下

約2万人の死者、行方不明者をだした東日本大震災から1年、2012年3月11日、日本列島は鎮魂の祈りに包まれました。

政府主催の追悼式が国立劇場で開かれ、心臓手術をうけ、4日に退院されたばかりの天皇陛下は、「大震災により失われた多くの人々に哀悼を表します。中略 大震災を忘れることなく安全な国土を目指すことが大切だと思います」と述べられました。

原発事故やがれき処理の問題などが復興に影を落とす中、約34万人の被災者は再生を誓いました。

ここでは、巨大地震・津波への地震学者や学会の反省、今後起きると想定される地震の公表、さらに防災や減災とマンションについて紹介します。

◎巨大地震と地震学者

本誌の新春100号で、巨大地震・津波について地震学者の発表を紹介しました。

昨年の地震直後に、地震学の権威者（国の地震調査委員長）は想定外であったと発表しました。

その数か月後に、一部の地震学者は千年周期の地震・津波を想定したが、評価して社会に公表する前に被災してしまい、申し訳ないとあやまりました。

◎日本地震学会の反省

昨年10月に、地震学の学理と応用の地震学会（2千名）の全国大会が、静岡大学で開かれました。

大地震を想定できず「敗北感」がたつたよう学会。シンポジウム「地震学のいまを問う」では、批判と反省をしたそうです。

「地震では人がしくなる。今まで純粹に学問だけをやりすぎた」

「知識を垂れ流すのではなく、もっと人命を救う情

報を発信すべきでないか」

政府の委員会に参加してきた地震学者は反省します。「学会は自然科学だけでなく、防災学や社会学などと連携を深めること。そして、社会貢献をめざしたい」

学会長は「簡単に改革できる話ではない。批判をどんどん出してほしい。それでどうするか、答えを考えたい」

◎日本地震学会の提言

本年5月下旬に、学会員からの反省論文と提言を盛り込んだ意見集をまとめた。

他の分野の研究者にも、参考になるでしょう。

例えば、既存の理論にこだわらすぎた。健全な批判精神やコミュニケーションが欠けていた。

さらに、工学系の研究者と協力していなかった。また行政にお墨付きを与える御用学者になっていたかも。

◎想定される地震を公表

日本各地で地震活動が活

発化しています。

本年になって想定できる地震や津波などが公表されています。その例

首都直下型地震は、マグニチュード(M)7級の地震です。その発生確率を地震学者が別々の手法で計算。「30年以内に70%」と予測しています。

マイホーム購入者は、「大きな地震が起きるなら、地震で壊れないマンションを買い、家族の命と財産を守る」と動き出しています。近くに建設中のマンションも売れゆきがよいそうです。

南海トラフ巨大地震は、東海・東南海・南海地震が連動しM9級で、高知県では最大34mの津波がおしよせると想定。

高校野球の甲子園球場がある西宮市、内海も予想外の津波。市は三階以上の堅固な公民建物を『津波避難ビル』に指定。当方の賃貸マンションも指定、本年4月に市は看板を掲示しました。(本誌100号も参照)

タカラ マンションリフォーム用システムバス



マンションの古いタイプの浴室
リフォームを独自技術で可能に。

排水トラップが埋め込まれたマンション浴室が、大がかりな
ハツリ工事なしで簡単にリフォームできます。壁から壁までの
「ゆったり浴槽」で快適に入浴していただけます。



タカラスタンダードホームページアドレス <http://www.takara-standard.co.jp/>
ショールームの地図はタカラホームページでご案内しています。

タカラスタンダード株式会社 本社 〒536-8536 大阪府城東区鶴野東1丁目2-1 TEL (06) 6962-1531